



新型コロナ禍を受けて公開した対応フローチャート。これは職員用で、病状判断や保健所・医療機関との連絡などの流れが、経験に基づいて一目でわかる



新型コロナ前の研修の様子。座学だけでなく、災害シミュレーションのボードゲームを活用したグループワークなど、ユニークな取り組みを行っている

禍のなかで樂会の活動が行われた。「2月にグリーンヒルみふねのある御船町で新型コロナ感染者が発生し、その方が福祉施設に立ち寄ったなどの報道に対しての問い合わせに追われました」と、NPO法人高齢者住まいの研究会代表で、現在は御船町に居を移し、グリーンヒルみふねの活動も手伝う寺西貞昭さんは振り返る。「グリーンヒルみふねで起こったことをまとめ、どのような対応が必要になるかをフローチャート化し、

それをネットで公開しました。メールやフェイスブックを通じて、各地の福祉関係者から好評をいただきました」と、寺西さん。元々福祉施設におけるBCP（事業継続計画）づくりを支援してきた経験があり、これを契機に、新型コロナを災害と捉え、患者が発生した場合に対応したBCPを作成し、これも公開した。シートを作成し、これも公開した。こうした活動により、同会の認知度も高まつたなかで発生したのが、7月の熊本県の人吉・球磨地方での水害対応である。

「新型コロナ禍の影響もあつたので、県外からのボランティアの受け入れができず、外からの支援は物的支援に限られるかたちになりました」と、当施設は県内とはいえない益城郡御船町ですから、今回は被災がありませんでした。そのため、県南の人吉地方の被災施設の支援に行こうとする職員がいた一方で、法人としては、支援物資の窓口になり、それを整理して必要な施設に必要な物資を送り込むこ

とを行いました」と、吉本さんは説明する。こうした支援は、避難所の雰囲気を和やかにし、苦しいなかにも笑顔をつくることができる。北は北海道、南は沖縄からたくさんのおもちゃや絵本の支援を行っている施設におもちゃを届けるプロジェクトが始まりました。ヒルみふねと一緒に災害支援をするプロジェクトの有志が集まり、グリーンヒルみふねと一緒に災害支援を行っている施設におもちゃを届けた。日本福祉防災樂会を通じて知り合った法人に対しても、そうした人との物的支援を行う一方で、ユニークな取り組みも始まつた。「以前より親交があつた認定NPO法人東京おもちゃ美術館の認定資格でもある『おもちゃコンサルタント』の有志が集まり、グリーンヒルみふねと一緒に災害支援をするプロジェクトが始まりました。吉本さんは説明する。こうした支援は、避難所の雰囲気を和やかにし、苦しいなかにも笑顔をつくることができる。北は北海道、南は沖縄からたくさんのおもちゃや絵本の支援を行っている施設におもちゃを届けた。日本福祉防災樂会を通じて知り合った法人に対しても、そうした人との物的支援を行う一方で、ユニークな取り組みも始まつた。「以前より親交があつた認定NPO法人東京おもちゃ美術館の認定資格でもある『おもちゃコンサルタント』の有志が集まり、グリーンヒルみふねと一緒に災害支援をするプロジェクトが始まりました。吉本さんは説明する。こうした支援は、避難所の雰囲気を和やかにし、苦しいなかにも笑顔をつくることができる。北は北海道、南は沖縄からたくさんのおもちゃや絵本の支援を行っている施設におもちゃを届けた。日本福祉防災樂会を通じて知り合った法人に対しても、そうした人との物的支援を行う一方で、ユニークな取り組みも始まつた。